

春の便りが届いています

3月6日は“啓蛰”。都会の中にひっそりと残された自然にも、春の訪れを感じさせる新しい命が誕生しています。

先日、水路でどんぐりからかわいい芽が顔をだしたり、セリの新芽がたくさん生えていたりするのを見つけました。崖下では“にりんそう”のみずみずしい緑の葉が出てきています。まだまだ寒い日もありますが、春の準備が着々と進んでいるのを感じます。“にりんそう”は4月5日(日)前後が見ごろだそうです。

美術館裏の水路の手入れも一段落して、堆肥づくりの柵も3つ並びました。昔あった、小川のせせらぎのようになるといいですね。

荒川での満潮時観察会では“カワセミ”“オオタカ”を確認!!

ほんの一瞬でしたが、“カワセミ”の羽の美しさに、しばし茫然としてしまいました。

4月から新年度がスタートします。下記 ご案内いたします。

荒川観察会と総会のお知らせ

日 時 4月19日(日) 午前9:30~午後4:00

集 合 場 所 浮間舟渡駅前(雨天の場合も実施します)

持 ち 物 弁当、おやつ、飲み物、あれば手帳カスケッチブック、双眼鏡、図鑑

参 加 費 200円(保険料含む)

*野鳥観察と植物観察に分かれ、土手を観察しながら笹目橋まで歩きます。

*いたばし野鳥クラブとの共催です。

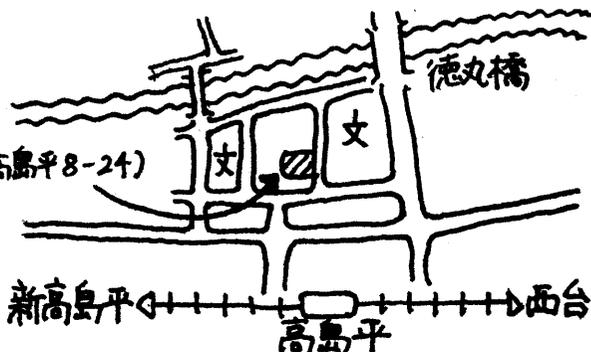
ひきつづき、総会を開きます

場 所 徳丸が原公園集会所(高島平8-24)

議 題 9年度 活動報告

10年度 活動計画

役員を選出



赤塚の森ボランティア第2回エコアップ検討会

1月31日、(株)緑生研究所の井本郁子さんに講師をお願いし、赤塚城址公園と区立公園の観察会とワークショップを行いました。11月の第1回エコアップ検討会に引き続き、生き物がすめる環境にするためにはどうしたらよいかを考えるためです(参加者26人)。

今回は、林のあり方についてこれまでに出了課題やポイントを整理して、現場を見ながら井本さんにコメントしていただき、午後は赤塚城址公園の林の現状と活動に対するアドバイスをいただき、会員からの問題提起と意見交換を行いました。

引き続き新年会では、アルコールが入ると猛然と元気が出る人もいて、8時頃までにぎわいました。何回か世話人会や作業で一緒だったけど、ゆっくり話し込んだのは初めてでした。

赤塚の森ボランティアの独自活動を進めるためには、林をよく知る必要があります。検討会は、多様な植物や生き物のことを考えて、どのような林であってほしいのか勉強し、活動のテーマを見つけていくことが目的です。

前回にはだいたい次のような課題があげられました。

- ①子供達が自然とふれあえる場所、遊んでもよいところはどこか
- ②ニリンソウなど草花が生えて、私たちが楽しめる場所はどこか
- ③生き物の生息できる環境にするには?
- ④人も立ち入らず、手も加えず、自然の力でその場所にあった自然の森になる場所は?
- ⑤人の立ち入りなどにより、下草も生えず、土が流出して根が浮いて林が痛んでいるところ

は何かしなければならぬ

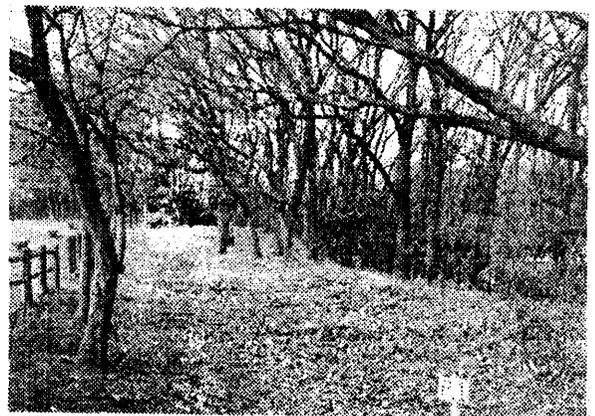
- ⑥生き物に欠かせない水辺地
- ⑦新しい木がこれから育つところ(あるいは新しい森づくり)

草花のない冬の観察でしたが、常緑樹と落葉樹がはっきりわかって、林の状態と管理を知る上では好条件でした。新年早々の大雪で、林のなかには、枝が折れた木もたくさんありました。

11月の観察会では、ササが茂っていました。どんな林にしようか、私たちが何ができるだろうかと話合ったばかりなのに、それがきれいさっぱり刈られていて、あっけにとられてしまいました。常緑樹はそのままでした。

<井本さんのお話から>

城址公園の林は、ニリンソウのある大門地区の木に比べて、高木だが幹まわりが細く、また面積あたりの木の本数が多いそうです。戦後すぐの航空写真を見ると、城址公園は伐採直後の明るい林になっていて、一方大門のニリンソウが群生しているところは、樹林になっています。このふたつの林は、戦争中に林をきったか、切



山の上の草地も山の縁も今後は要観察区域。

っていないかの違いがあるそうです。

現在常緑樹がかなり大きくなっています。このままだと常緑樹の暗い林になってしまうが、木を切るということに抵抗があって常緑樹が残されています。

みんなで雑木林として管理する場所が決まったら、雑木林の子供の世代が育つ環境づくりを考える必要があります。部分的に木を切った明るい場所があると、植物種も増えるということでした。

また斜面上の乾燥を好む植物、斜面下の土壌が厚く湿ったところを好む植物（ニリンソウなど）、斜面中ほどの中くらいの土壌環境を好む植物など、それぞれが好きな場所があり、斜面の全体を考える必要があるということでした。

植物の芽が出やすくするために、部分的にでも落ち葉を掻いてみたり、裸地には、近くと同じ様な地形のよい環境の土壌（種子が混じっている）をもってきてまく、など手法についてもアドバイスいただきました。



観察会で現地での林の勉強会

<会員の問題提起>

矢田さんから：城址公園広場の林で、林の中にあるものを使って、堆肥置き場と、落ち葉が飛散するのを防ぐ柵をつくった。子供達も参加できる自然回復の作業がどんなものかわかりい

ただけだと思う。鳥も、虫も、木も全部一緒に考えた雑木林づくりにしたいと思う。

釣巻さんから：昆虫の立場から。下草が刈られササがなくなっていたが、ササを食草とするチヨウがいる。クズが嫌われているがクズを食べるチヨウもいる。乾いた落ち葉にくっついて越冬するサナギ、雑木林を切った後の草原にくるチヨウや、切り株から出た芽に卵を生むチヨウなど、かつてあった雑木林の多様な場所が、多様な昆虫の生息環境になっていた。

赤塚公園ではこのような雑木林に特徴的なチヨウの多くが全滅してしまった。一面的な管理でなく、多様な場所をつくりたい。子供達が自然のなかで遊び、自然が好きになるように、遊べる場所も必要である。

島井さんから：森とは人間にとって何か。現在、私たちの目の前にある森は、過去の自然と人間の関わりを知ることができる残り少ない貴重な森である。昔は、生活のために森を利用し森にたよって生きてきたが、現代では森から遠ざかっても生きていけるかのようである。しかし、森を消滅させたり瀕死の状態にすることは、人間も含めた生態系の持続はあり得ない。さまざまな生き物たちを育てている森が、これからどのような姿になろうとするのか、人間には判断できない。現在の森を豊かな森として後世に残すために、どのようにしたらよいかは、慎重に考えなければならない。

<まとめ>

- ①これから春夏秋冬の林の植物や生き物の観察会をして、雑木林の状態を把握する、
- ②手を加えないところ、雑木林として管理するところ、など、しっかりとした計画をつくる
- ③部分的に段階的に実験をして様子を見る
- ④ゴミ拾いなども日常的な活動も大事

私たちのやっていることが認められるような活動をしていこうと確認しあいました。

3年程前に自宅(栄町)に青い蛍光灯をつけてみた。むしを誘い寄せるためである。しばらくごぶさたしている、スズメガやコガネムシに会いたいと思い立ったからである。どうお暮らしますか、とたずねたく思ったからである。

ところが、一夏にやってきてくれたのは、数頭のコスズメにヨトウガ、カブラヤガぐらいだった。昔はあんなにいたシモフリスズメやコフキコガネは一頭もやってこなかった。さびしさと時代の変りかたの速さを思い、青い蛍光灯の前でうなだれるだけであった。

赤塚溜池や、荒川土手のむし達はどのようにしているのだろう、もう30数年は会っていない。

そんな思いでここ2、3年区内のあっちこちでむしを探してみた。結果は予想よりさびしいものであった。もちろんさっと見ただけなので、見落としだらけだろう。でもむかしはさっと見ただけでも、たくさん目についたものである。そんな板橋のむし達のことをすこし書いてみたい。

まず最初は、カラスアゲハ、黒い羽に緑色の鱗粉を散らした大きい蝶、極く近い仲間のミヤマカラスアゲハに比べるとくすんだ感じだが、美しい蝶である。

40年前の大門の諏訪神社、長い参道を通り仁王様のある門をくぐり抜けると拝殿である。小学生の私には拝殿は用がない。目的は裏のクサギの花である。何本もならんだ大きい杉の木の間に生えていて、8月も半ばを過ぎると咲き出した。大きい黒い蝶が森の奥から次から次へと飛んでくる。クサギの花にくるカラスアゲハは簡単に採れる。林の中ではゆっくり飛んでいる

ようだが、案外採りづらい蝶なのだ。

今でも諏訪神社の裏で、クサギの花に来るのが見られる。もっとも杉の生えていた辺りは道路になってしまったが。

森の蝶なのだ。特に夏は森からあまり出てこない。夏、赤塚城跡の下の薄暗い竹林のなかで待っていると、何匹かのこの蝶がもつれるように飛んでいるのが見られるだろう。黒い羽の蝶は日向では体温が上がりすぎるのだ。

アゲハは日向の蝶、クロアゲハは日陰、カラスは森で当然板橋区内での分布は限られている。1958年に栄町で採集しているので、その頃は区内全域にいたのだろう。現在では、私が確認したの

は四葉、大門の崖線、赤塚溜池から不動の滝周辺で、個体数は多い。多分、志村から小豆沢、赤羽台にかけて点々と生き残っているだろう。他には、加賀公園(1990年記録有り)、大谷口から小茂根あたりが可能性あるので調べてみたい。

調査時の問題は、飛行中

はクロアゲハとの区別が難しいことである。町中の公園ではクロアゲハも木立ちの中によく入るのである。羽か体の緑色を確認しなければならない。食草はコクサギ、キハダ、サンショウ、イヌザンショウ、カラタチ他ミカン科各種で範囲は広いが、各産地での食草は1、2種に限定されるようである。赤塚では多分コクサギ。暗い林内でコクサギを食べているアゲハの幼虫を見たら板橋周辺ではまずこの種と見て間違いない。保護のためにはまず林を残すこと、コクサギを切らない事である。

コクサギ(ミカン科)

葉が2枚づつ交互に出るのが特徴の低木。諏訪神社下の湧水の回りに多い。

釣巻岳人 記



湧き水に想いを寄せて

大門 吉村 泰代

2月7日(土)10時から美術館脇の用水路の作業にでかけました。どんな作業になるか、少しワクワクしながら参加しました。

集まったのは、リーダーの矢田さんのほか男性2人、女性3人でした。堆肥置き場を作り落ち葉やごみの整理をしました。朽ちかけた落ち葉と、硬くなった雪をどけると、もういろいろな草の芽が育っています。本当に小さくて可愛い芽です。もう春なんだなと実感しました。

竹ぼうきで用水路の落ち葉かきをしている

と、心が弾んできます。早くここに水を通して、いなかのたんぼ脇の小川のようにしたいな!なればいいな!と。メダカが泳いだり、カワニナやタニシがいたり、セリやフキノトウがでたり、タンポポが咲いていたり、ひと昔前のどこにでもあった小さな流れに復活できれば、ほんとにいいと思います。

とりあえず欲ばらずに 小さな流れを作って、それからホテルの住める環境になればいいと、集まったみんなと話しました。

ほかほか陽気の中で子供も大よろこび!!

高島平 小松 容子

2月28日(土)はポカポカと暖かい一日で、子供たちが三人参加してのにぎやかな作業になりました。まずは“堆肥”の看板作りから始まりました。「子供たちにも役割を与えてやらにゃ〜いかん」ということで、それぞれ長い棒を持って歩き始めましたが、人がそばにしようがお構いなしにあっち向いたりこっち向いたり、ついていった大人たちはハラハラ、ドキドキ。

“そういえば、普段はこんな長い棒を持つことはないものね〜”

いつもながら、矢田さんの器用さには驚き!です。あれよ、あれよ、という間に看板のできあがり。となりでは子供たちがなれない手つきで竹や枝をギコギコやったり、竹をガンガンならしたり、やりたいほうだい。たびたび作業が中断してしまいます。でも、子供たちの嬉々とした表情に、矢田さんの顔もたのしそうでした。ノコギリで指を切ったり、棒で自分の手を打ったりもしましたが、“ほっといて、好きにさせてやったらいい。自分でわかるから、ちゃんと

見てやったらいいんだ。” その言葉に思わず、何度もうなづいてしまいました。

水路では、カエルを見つけて大騒ぎになりました。迷惑そうなカエルさんをつかまえて、得意満面の顔。そこで一枚、“はい、ポーズ!”

遊び疲れて、おなががすいて、水路の石に腰かけ、おにぎりを食べていると・・・かわいいザリガニがいるのを滝川さんがみつけてくれました。1.5cmか2cmくらいでしょうか。こちらはかくれるのが上手で逃げられてしまいました。

子供たちのおみやげに、矢田さんが“水てっぽう”を作ってくれました。

やさしいおじいちゃん方(失礼)に感謝!



いたばし荒川自然回復団



1月31日 満潮時観察会の報告

参加者： かがみ、笠原、金田、木村、小松、新保、高野、(財)埼玉県生態系保護協会
(高橋他 3名)、計10名

東京湾 7時23分満潮、満潮位 1.88m、およそ1時間ほど東京湾とは満潮時刻がちがうだろうと笠原さんより聞いていたため、8時に現地集合し、水路、実験穴などを観察しながら旧白子川河口へ向かう。あたりは白く霜がおりており、冬らしい景色となっていた。

水路と穴の様子

成人の日に降った大雪の雪解け水が残っているようで、水路にも穴にもそれ以後雨がふっていないにも関わらず2~30cm程度の水深があり、表面は薄氷となっている。

これらの水は図のAの付近で水は無くなっている。

満潮の水がどこまであがっているか

河口側から見てくるとどうもBの地点まで水は上がってきているらしい。クロベンケイガニの生息場所とほぼ一致している。

低水護岸の天端コンクリートの下の辺りまできている。船舶の通過時は天端を越えるほどの波がきている。

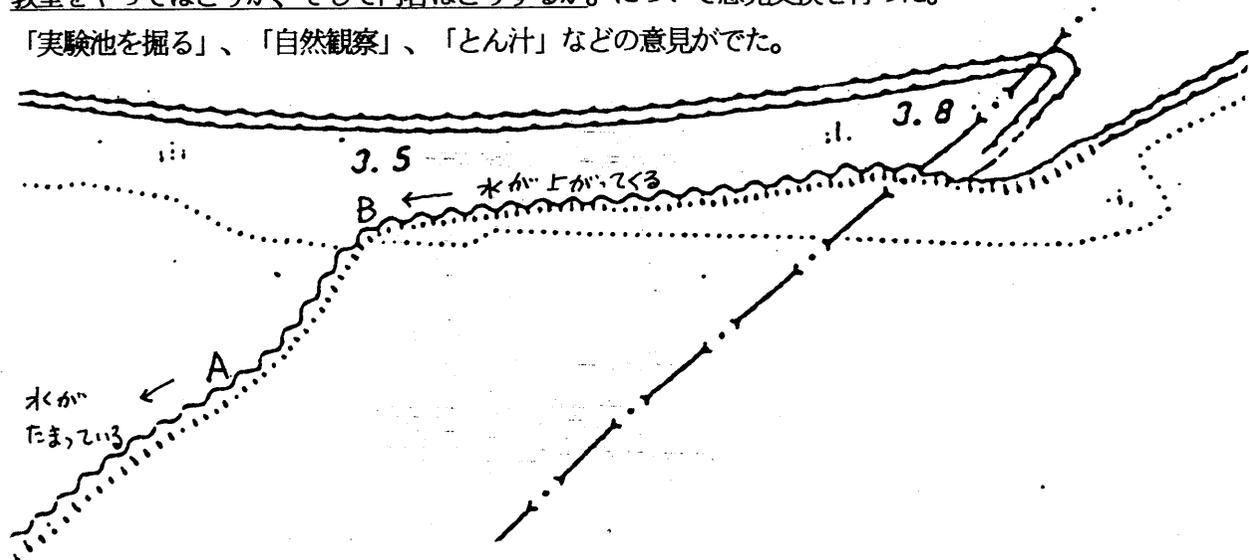
気がついたこと

河口付近で「河口のかけは一部残した方がカワセミの営巣を考えると良いのではないか」と話し合っている最中、カワセミが姿を見せた。

穴の付近でミーティング中、オオタカが上空を下流へむけて通過する。

東京都の「都民グリーンフェスティバル'98」の行事のひとつとして、「みどりの中の自然教室」をみどりの推進委員の企画で行うことになっているが、笹目橋緑地でも自然教室をやってはどうか、そして内容はどうするか。について意見交換を行った。

「実験池を掘る」、「自然観察」、「とん汁」などの意見がでた。



活 動 の お 知 ら せ

定例会は毎月第一木曜日(4月2日、5月7日)産文ホールB1サンイチで(食事可)どなたでも。

赤塚の森ボランティア

●浄蓮寺下の水辺エコアップ

日 時：3月21日(土)午前10時

集 合：美術館前

浄蓮寺下には湧水が少しわいています。人通りが少なく野鳥がよく来るところです。ここを生き物のために少し手を加えられないか検討します(連絡先：坂本 3952-6688)。

●ニリンソウお花見どき：4月5日頃。ニリンソウの会ではパトロールをしています。

●掲示板をつくります

日 時：4月4日(土)午前10時

集 合：美術館前

赤塚公園に来る人たちに私たちの活動に参加してもらえるよう、活動内容や、日程などをお知らせする掲示板をつくります。私たちの連絡にも使います(連絡先：矢田 3973-0998)。

●春の観察会

日 時：5月10日(日)午前10時

集 合：美術館前

植物・昆虫の観察。城址公園の自然の宝物をさがします。私たちが公園の手入れをしていく場合の検討材料にもなります。

(連絡先：小松 3937-8490)

●湧水水路

おかげさまで湧水水路の清掃は一応終わりました。ここの整備については、区は、改めて広報いたばしで募集して、住民参加により水路と池のピオトープ整備をします。水と緑の会からも参加しましょう。

荒川自然回復団

●笹目橋緑地池掘り&カレーライスを食べる会

主 催：いたばし水と緑の会 荒川自然回復団、

共 催：いたばし野鳥クラブ

日 時：4月26日(日)午前9時30分

集 合：三田線西高島平駅改札口(直接会場へも可)

持ち物：ご飯、皿、コップ、スプーン、箸などあればスコップ、その他

参加費：500円(保険料など)

注 意：池を掘りますので、汚れてもよい服装でご参加下さい。もちろん、着替えやタオル、足元の履き替えも忘れずに。

荒川河川敷で池掘りに挑戦します。トンボ、ゲンゴロウ、カエル、カワセミなど水辺の生き物呼び寄せのために、とりあえず水が溜まる場所と、簡単な水門をつくります。からだを動かした後は、おいしいカレーをつくりますので期待してください。

(連絡先：栗林 3959-2072)

●夏の渡り鳥・区内早朝観察会

主 催：いたばし野鳥クラブ

日 時：4月29日(祝)午前6時15分

集 合：光が丘公園北口(交番脇)

赤塚城址区立美術館前

都立城北公園体育館前

区立見次公園ボート乗場前

区立小豆沢公園体育館前

区立東板橋体育館前

持ち物：双眼鏡、図鑑

参加費：200円

(連絡先：栗林 3959-2072)